

グアム政府観光局 (GVB)

ココ・ウィークエンドなどイベントをフックに需要喚起を図る 羽田便就航を機に家族向けには「週末留学」提案も

グアム政府観光局(GVB)は、スポーツイベントなどをテーマとした旅を提案。FITやマラソンファン、家族連れでも参加可能な大会「ココ・ウィークエンド」を切り口の一つとして、さらなる需要喚起を図る。日本からわずか3時間半のフライト、1時間の時差、治安の良さなどを打ち出し、さらに現地で使える電子クーポン「GOGO! GUAM PAY」や団体旅行支援「GVB グループサポートプログラム2024」の活用を呼びかけ、2024年5月1日からのユニテッド航空羽田便就航に弾みをつけていきたい考えだ。GVBが主要なフックのひとつとして活用を考えるマラソンイベント「ココ・ウィークエンド2024」の取材を通し、その可能性を紹介する。

(取材・文/写真=西尾知子)

マラソンを通してグアム文化を体験する「楽しむ」ためのリゾート・ラン

ココ・ウィークエンド(KO'KO' WEEKEND)は2024年に14回目を迎えるGVB主催のマラソンで、2024年は4月13日・14日の2日にわたって開催された。初日13日は4~12歳の子供たちによる「グアム・ココ・キッズファンラン」が、2日目の14日は大人によるハーフマラソンと10キロのロードレース「ココロードレース」が行われた。グアムではかつてフルマラソンを含む「グアム・ユニテッド・マラソン(グアムマラソン)」が開かれており、ココ・ウィークエンドはマラソンを通して現地文化体験や交流を楽しむ「リゾート・ラン」の立ち位置で差別化を図っていた。コロナ禍によりグアム

上げて対応を図ってきた。さらにキッズ・ランを含めた家族参加の可能性を探るため、保育園園長の経験がある保育士を招いて大会を視察してもらうなど、今後に向けた取り組みも行っている。

初心者にも優しいリゾート・ラン 家族で楽しむグアム「週末留学」に

では具体的にココ・ウィークエンドを見てみよう。先に紹介したように、会期は2日間。初日のキッズ・ランは4~12歳の子供を年齢ごとに3つのカテゴリーに分けて、イパオビーチの公園内を走る。最長でも約3キロだ。大人は2つのカテゴリーに分けて交通規制をした市内を走る。2024年の参加者は両日で約1200人となり、昨年の約1000人を上回った。また日本からは大人28人、子供8人、計36人の参加があった。



マイクロネシアモールで出場エントリーをしてゼッケンなどを取り取る



一斉にスタートを切る子供たち

マラソンは大会そのものがなくなり、グアムのマラソンイベントはココ・ウィークエンドだけとなっているが、ココ・ウィークエンドはあくまでもファン・ラン(楽しみながら走るイベント)としていく。このロードレースを通して世界各国の参加者にハファダイ精神あふれるおもてなしやグアムの文化を体験し、観光を楽しんでもらいたい」とGVBグローバルマーケティング・ディレクターのネディン・レオン・ゲレロ氏は話す。

その方策の一環としてGVBは日本をはじめ韓国や台湾、フィリピンなど主要市場から著名人などを招待し、実際にレースに参加してもらうことで知名度の向上を図ろうとしている。加えてGVB日本オフィスでは、日本語で大会エントリーができる登録サポート事務局を立ち



恋人岬を背にゴールを目指す



グループで記念撮影も



大人の大会は夜明け前にスタート

大人のレース「ココロードレース」開始は早朝5時から。まだ夜が明けきらない中をスタートし、早ければ10キロでは50分ほど、ハーフでも1時間半ほどでトップランナーが戻ってくる。日本人参加者でハーフマラソンで優勝したインフルエンサーのさーたん(@saachi_10)さんは



ハーフマラソンで優勝したインフルエンサーのさーたん(@saachi_10)さん

「次第に夜が明け、空の色が変わる風景を見ながら走るのが面白かった」「地元の人の応援が分け隔てなく優しく、がんばろうという気になった」とコメント。グアムマラソン時代から参加し、世界各地のマラソンを体験しているという参加者は「久々のグアムを楽しんだ。このコースは最後の直線が海が正面に見えるのが良い」と話す。またホノルルマラソンや日本の大会に参加しているというインフルエンサーの坪井みさと(@misato1030)さんは「グアムは時差が1時間なので体調管理が楽。海外マラソンデビューに向けているのでは」と語っている。



GVBスタッフもロードレースに参加した 日本人参加者とともに

今回大会を視察した保育士の富田朋子さんは「子供の異文化体験として良いイベント。異文化、英語圏文化へのあこがれが、グアムなら3時間半ほどの移動距離で実現できる。治安もよく、現地の人も親切。子供の体験を通して親も成長できるよい機会となるのでは」と太鼓判を押す。

「週末留学の機会として提案したい」とはGVB日本オフィスの秋葉祐輔エグゼクティブ・ディレクター。「グアムは週末を使い2泊3日、3泊4日で訪れることができる最も近いアメリカ。マラソンのみならず、バスケットボールなど要望に応じて様々なスポーツ交流の可能性がある。5月から就航する羽田便は早到着となるので活動時間が増え、多様な体験が可能となる」と語っている。ちなみに2025年のココロードレースは同時期に開催予定で、詳細は近日中に発表する計画だが、GVB日本オフィスでは早い段階で登録サポート事務局を立ち上げ、参加者を募っていくという。



ゴルフゲートにくぐったランナーに分け隔てなくねぎらいのエルが贈られる



アフターパーティーでは台湾や韓国、フィリピンからの参加者と交流も

GVBの支援策を活用 円安だからこそ「近いグアム」を

こうしたなか、GVBでは「GOGO! GUAM PAY」や団体旅行支援「GVB グループサポートプログラム2024」を活用して、さらなる観光客誘致や需要喚起を図りたい考えだ。

「GOGO! GUAM PAY」は指定旅行代理店経由でグアム商品を購入した消費者1人につき先着5000人まで30USドル相当の電子クーポンが付与されるもので、好評につき7月19日まで延長されている。団体旅行に対しては送客人数に応じて旅行会社に補助金を支給する「GVB グループサポートプログラム2024」を実施している。GVBセールストレードディレ

クターの若杉正人氏によると、2023年12月の発表後、4月時点で60団体約6000人の申し込みがあり「非常に好評」で、2024年10月以降も継続予定だという。最低5人から適用可能で、少人数のグループ旅行や大型インセンティブ旅行など、団体の形態は問わないため、「マラソン仲間とココロードレースに参加する場合も対象となる。GOGO! GUAM PAYとも合わせて、ぜひ利用していただきたい」(若杉氏)。

グアム観光局の統計によると2023年の日本人客数は13万6736人。2024年の1~3月は5万8749人と、2023年同期比159%となる伸びを示している。レオン・ゲレロ氏は「日本市場の復調傾向に手応えは感じている」としつつも、円安などの懸念材料を挙げたうえで「日本市場が完全に回復するのはいま2年ほどかかるだろう。(市場回復に)LCC便の就航を期待したいが、それには羽田便の成功がカギとなるのでは」と見ている。



GVBグローバルマーケティング・ディレクターのネディン・レオン・ゲレロ(左)とジャパンマーケティングシニアマネージャーのレジーナ・ネドリック(右)

グアムのホテルのなかには、早朝着の羽田便のためにアーリーチェックインを検討するところもあるなど、高い期待が寄せられているという。円安で海外が遠い今こそ、わずか3時間半で訪れることのできるグアムには「週末留学」「週末デステイネーション」と言えるアドバンテージがある。しかもFITや家族、ハネムナー、MICEなどあらゆる層にアピールが可能だ。GVBからの支援も活用し、送客につなげたい。



マスコットのKIKOと記念撮影をするグアム州副知事のジョシュア・テノリオ氏(左)とGVBカルTCTジェイレス局長兼CEO(右)

昨年12月にオープンしたウェルネス施設 REVIVE 23

マラソンを終えた午後はマッサージやサウナなどで体をほぐしながらのんびり過ごす提案も。REVIVE 23は2023年12月にオープンしたウェルネス施設。個室サウナやコールドプランジ(水風呂)、最先端機器を使ったマッサージが受けられる。



団体旅行の利用にも最適

フィッシュアイ・アイランドカルチャー・ディナーショー

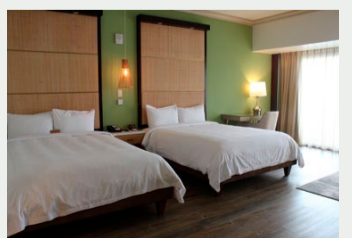
夜はディナーショーを組み込むのもおすすめ。フィッシュアイのショー(全220席)は舞台との距離が近く、何より食事の質が高い。



ショッピングモールも隣接 FITから大型グループまで様々なニーズに対応

デュシット・ビーチ・リゾート・グアム

デュシット・ビーチ・リゾート・グアムはグアム観光の拠点となるタモンビーチの中心に位置する。多様なショップやレストラン、スーパーマーケットが入るショッピングモール「デュシットプレイス」が隣接しており、使い勝手のいいホテルとして評判が高い。総客室数は604と、個人から小グループ、大型グループ旅行などあらゆる客層に利用できる。多国籍料理やバーベキューの楽しめるレストラン、ビーチに面したバー、ペーカリーが揃うほか、着席で200名規模のバンケットルームも複数備えている。ワンランク上の客層には朝食やスナックなどを最上階の静かなクラブラウンジで楽しむことができるクラブルームをすすみたい。このほかデュシットグ



ループではデュシタニ・グアム・リゾート、2023年に改装を終えたばかりのベイビュー・ホテルも有している。商品価格帯に応じて使い分けが可能だ。